

2022年度 関西学院大学 海外客員教員(招聘A) 成果報告書

(*本報告書は本学ウェブサイト等で公開されます)

(適宜行追加可)

受入担当 教員	所属・職	経営戦略研究科・教授
	氏名	石原俊彦
海外客員 教員	所属・職	Business School, Manchester Metropolitan University, UK ・ Reader
	氏名	Russ Glennon
招聘目的	①. 授業担当及び研究 2. 共同研究 3. 特別枠 (いずれかに○)	
招聘期間	2022年10月14日 ~ 2022年11月30日	
成果報告 以下の内容を記載して下さい。	<p>(1) 授業科目名 博士課程後期課程の講義としての先端マネジメント特殊研究(行政経営) 授業では英国における公共サービス提供機関(地方自治体・医療機関・大学・非営利組織等)における組織運営や組織戦略をテーマに、日本と英国の比較から、受講生に多くの研究資料と情報が提供された。受講生はこうした情報等から受講者間の積極的な討議を行ない、各人の博士論文作成の基礎とした。</p> <p>(2) 授業担当の成果 講義内容は、Performance Management、Evidence Based Policy Making、Strategic Map、Accountability、Audit and Inspection を中心とする内容で、受講生の多くが博士論文を作成する上での多くの知的な刺激を受けたと感想を述べている。講義はすべて英語で行われた。受講生とGlennon教授との討議もすべて英語で行われた。Glennon 教授は、講義に出席した約15名の博士課程後期課程生と大学院研究員に対して個別にオフィスアワーを実施し、個々の博士論文作成に関する学術的なコメントと博士論文作成における留意点を詳細に指導された。オフィスアワーは、関西学院大学が提供した個人研究室で行われた。オフィスアワー参加者は異口同音に、各人の博士論文の作成と今後の研究活動に個別具体的な示唆をいただき感謝をしていると感想を述べている。</p> <p>(3) 研究の内容 Glennon 教授が中核的な筆者として執筆された Peter Murphy, Laurence Ferry, Russ Glennon and Kirsten Greenhalgh, <i>Public Sector Accountability</i>, 2018, Palgrave Macmillan を研究材料として、公共サービス提供機関の説明責任のあり方について理論的な再検討を行った。本書の構成は、1 再びアカウンタビリティを問う、2 本書の評価モデル、3 地方自治体、4 医療・社会福祉、5 警察、6 消防・救助、7 公共サービスのアカウンタビリティ—議論を通じたいくつかの考察—となっている。</p> <p>(4) 研究の成果 研究成果は上記書物の翻訳書出版という形で結実の予定である。翻訳体制は、受入教員と受入教員の研究室出身の大学教員・博士学位取得者・博士課程後期課程在籍者で構成され、2023年度中の出版を予定している。</p>	
1. 授業担当及び研究 (1) 授業科目名 (2) 授業担当の成果 (3) 研究の内容 (4) 研究の成果		
2. 共同研究 (1) 共同研究の内容 (2) 共同研究の成果		
3. 特別枠 (1) 活動内容 (2) 成果		